

社会貢献活動

鹿島グループは、「社業の発展を通じて社会に貢献する」と謳う経営理念に基づき、事業活動の遂行とともに、良き企業市民として社会や地域の課題解決に取り組み、社会の持続的発展に貢献します。

2021年4月に制定した「鹿島グループ社会貢献活動方針」のもと、「防災活動と災害復旧」「地域貢献」「環境保全」「次世代教育」、財団を通じた「学術・文化・芸術の振興」に取り組んでいます。

災害復旧活動

令和6年能登半島地震への対応

2024年1月1日に発生した令和6年能登半島地震では、災害発生直後から震災対策本部を設置し、社員・社外人材の安否、被災地及び得意先の被災状況を確認しました。翌日には現地に社員を派遣し資機材搬入を開始し、国土交通省、(一社)日本建設業連合会の支援要請を受け24時間体制で道路啓開などの緊急復旧作業を実施しました。

その後も当社は、石川県輪島市の熊野地区河川閉塞箇所・市ノ瀬地区土石流発生箇所、穴水町の「のと里山海道」自動車道崩落箇所の3か所で復旧工事を行っています。

また、役員・社員並びに鹿島ボランティアネットワークから寄せられた災害義援金に、会社拠出分1,000万円を加えた、総額27,954,220円を石川県に寄付しました。



のと里山海道の復旧工事



石川県に義援金を贈呈

学術・文化・芸術の振興

第18回KAJIMA彫刻コンクールの開催

鹿島は隔年で「KAJIMA彫刻コンクール」を実施しています。本コンクールは鹿島建設創立150周年記念として1989年に創設以来「彫刻・建築・空間」を一貫したテーマとして、彫刻芸術と建築空間が出会う魅力的な空間の創造を目指しています。第18回となった今回は、応募総数は国内外から201点にのぼり、第1次審査で選ばれた入選作品8点のなかから、金賞、銀賞、銅賞、奨励賞が各1点選出されました。ポー

ランドの学生が制作した作品が銅賞を獲得するなど、20代の若手作家から、経験豊富な作家が実力を競いました。



第18回金賞受賞作品
「彫刻家具(みんなの本棚)」西村 浩幸

受賞作品はこちら



財団を通じた学術・文化・芸術の振興

公益財団法人 鹿島学術振興財団

1976年設立。日本の学術の発展並びに学術の国際交流を図るため、自然科学及び人文社会科学の幅広い分野を対象とし、研究助成(一般・特定テーマ)、研究者交流援助(派遣・招へい)、国際共同研究援助、国際研究集会援助などの事業を行っています。また、2024年度からは全国の大学等からの応募が可能になりました。

2023年度は、合計93件、総額2億1,585万円の助成・援助を決定。毎年、採択者の贈呈式、研究成果の発表会を開催しています。

公益財団法人 鹿島美術財団

1982年設立。美術の振興を図り、日本の文化の向上と発展に寄与することを目的として、美術に関する調査研究助成、出版援助、国際交流援助、美術普及振興を行っています。

2023年度は前年度より増加し、合計98件、総額1億335万円の事業を実施。毎年、調査研究助成者のうち優れた成果を上げた研究者に対し、鹿島美術財団 財団賞・優秀賞を授与しています。今春、新型コロナで延期していた第30回及び第31回の財団賞・優秀賞の受賞者8人による研究発表が行われ、WEB聴講も含め約260人が視聴しました。

公益財団法人 鹿島育英会

1956年設立。経済的に恵まれていない国内の大学生、大学院生及び外国人留学生に対して奨学金の給付援助を行っています。2023年度は全158人に総額1億2,126万円の奨学金を支給しました。

一般財団法人 鹿島平和研究所

1966年設立。国際平和の推進と日本の安全確保などに寄与することを目的とし、国際間の平和・安全・経済、日本の外交に関する諸問題の調査研究とその援助、研究成果の出版を実施しています。

公益財団法人 渥美国際交流財団

1994年に外国人留学生対象の奨学支援事業と留学生を通じた国際交流事業を目的として設立されて以来、30年となりました。2022年度からは日本人学生も対象となり、2023年度までに53か国・地域からの366人に奨学支援を実施しています。また、世界各国で大学教員や研究者として活躍する元奨学生を主体にアジア未来会議をはじめとする国際学術会議やフォーラムなどの国際交流事業を国内外で展開し、国際交流ネットワークの構築を目指しています。